

今年も残すところあと半月。冷たい風が吹いて、寒い日が続いています。水がとても冷たくて手がピリピリしびれます。思っていたより寒い、四国の冬です。

＜三木町のむかし話＞

「ぬくもりある民話を子どもたちに伝えていきたい」との思いから、町内のお母さんたちで構成された三木民話会が、自分たちで資料を集め、地域のお年寄りから各地区に伝わる民話を聞き（採話）、それを分かりやすく文章に直して（再話）作った「三木町のむかし話」という絵本があります。（文・挿絵から印刷・製本まで全て手作りです！）

せりふも「さぬき弁」で書かれており、挿絵もとても味わいがあって、子どもから大人まで楽しめる絵本です。（1～5巻まであります）

先日、昔ばなしを聞きながら、町内のゆかりの地を巡りました。
その中から「**嶽山と白山の背くらべ**」のお話をご紹介します。

こちらを
ご覧ください。



左端が嶽山、右端に写っているのが白山 『三木町のむかし話』（三木民話会）
※嶽山は204メートル、白山は203メートルあるそうです。

まんばのけんちゃん

- 香川の冬の郷土料理です。「まんば」という高菜の一種を、いりこ、油揚げ、豆腐と一緒に炒め、醤油で味付けし、煮浸しにしたものです。「まんば」（万葉）という名前の由来は、葉を取っても取ってもすぐ新しい葉が出てくることからきているそうです。
- 「けんちゃん」は「けんちん」がなまったとのこと。
- ちなみに、西讃（香川県西側の地域）では「ひゃっかの雪花」と呼ばれています。
- 白い豆腐がまるで雪のように見えるから、というのが由来だそうです。
- 雪はめったに降らない香川ですが、食卓の上で、冬を感じて味わうのもいいですね。

だけやま しらやま
嶽山と白山の背くらべ



「おーい、白山どん、今日は天気かええのう。」
「ほーい、嶽山どんかい。あんまり気持ちがいいんで、うとうとしとったよ。」
ここは、三木町の真ん中。

北の白山どんと南の嶽山どんが、いつものように仲良く話をしていました。

すると白山どんが、
「きのう、雲太郎に白山どんと嶽山どんは、どっちが背が高いんだいと聞かれたよ。」

と話しました。
「そりゃ、わしに決まっとる。」
と嶽山どんは、すまして言いました。
すると白山どんも負けずに言いました。

「いいや、おいらだよ。嶽山どんは ごつごつした岩山だから、背が高そうに見えるだけさ。」
それを聞いた嶽山どんは、顔を真っ赤にして、おこりました。

ついに、二つの山は自分の方が背が高いと言って、けんかを始めました。

「よーし、それじゃ、背くらべをしようじゃないか。」
嶽山どんが言いました。

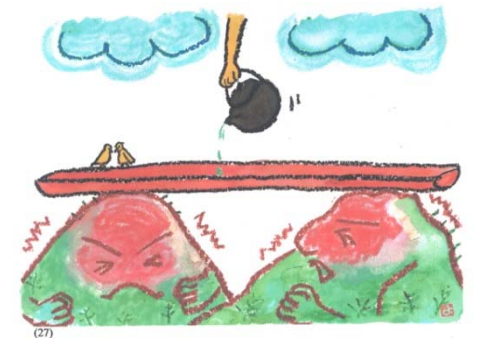
「いいとも。」
白山どんも賛成しました。ところが、背くらべをしようと言っても大きな物差しがあるわけではありません。こまっていると、天から神様が下りてきました。



「そうぞうしい、何をもめているんじゃ。」
二つの山は先を争って、
「神様、おいらの方が背が高いよね。」
「いいや、わしじゃ。」
とどちらも ゆずろうと しませんでした。

話を聞いた神様は、両方の顔を見ながらいいました。
「なーに、かんたんな事じゃないか。わたしがといをかけてやろう。といに水を落とせば高い方から低い方へ 自然と水は流れていくじゃろう。水が流れてきた方が負けじゃ。」
「ふーん、さすがは神様。」

さっそく神様は、嶽山どんと白山どんの間に、長いといをかけました。そして、といの真ん中から土びんで、水をポタリポタリと落としました。水は、はじめ南の嶽山の方に流れはじめましたが、嶽山どんは負けてなるもんかと、大きく息をすって、思いっきり背のびをしました。すると、今度は北の白山の方へ水が流れていきました。



そうして、嶽山と白山の背くらべは、嶽山の勝ちとなりました。神様が、天地をつくったころのお話です。

嶽山（三木町水上）は、二〇四メートル、白山（三木町下高岡）は、二〇三メートルあります。

『三木町のむかし話2』（三木民話会）より